

幼児の性役割獲得に関する理論及び 実証的研究の概観

西 垣 悦 代

目 次

I 章 理論的背景

1 節 性役割の定義

2 節 性役割の獲得過程に関する諸理論

(1) 発達の同一視理論

(2) 社会的学習理論

(3) 認知発達理論

II 章 実証的研究

1 節 性別行動の発達に関する研究

2 節 行動獲得に及ぼすモデルの効果に関する研究

3 節 性別概念の発達に関する研究

引用文献

I 章 理論的背景

1 節 性役割の定義

「役割」(role) の概念を初めて体系的に取り上げた Mead, G. H. は、自我 (self) の社会化の単位として、この概念を用いている。彼は「自我は、一般化された他者 (the generalized other) 及び彼が属する社会集団全体の、社会的態度の組織化によって形成される。」(Mead, 1978, p. 146, reprinted from Mead, 1934) と説明している。つまり Mead によれば、自我は「他者の役割を取得する」ことによって形成されるのである。また、Allport, G. W. によると、「役割とは社会生活における構造化された参加の様式である。もっと簡単にいえば、ある集団内において任意の地位を占める個人に、社会が期待するところのものである。」とされている、(Allport, 1961 今田 (監訳) 1968, p. 227)。

人が一生のあいだに取る、多くの「役割」の中でも、本論文で取り上げようとする「性役割」(sex role) は最も重要なもののひとつである。まず「性役割」がどのように定義づけられているかみてみよう。柏木によると、「性役割とは、社会 (文化) から性に応じて期待される一連のパーソナリティ特性つまり性に対する社会的役割期待である。」とされている (柏木, 1973, p. 106)。また、井上は「文化の中で性別によって適切とみなされる行動特性、パーソナリティの特徴を性役割という。すなわち性役割とは、性差に基づいて社会から期待され、また自己が知覚した役割である。」と定義している (井上, 1970, p. 132)。つまり性役割とは、男女の外見的特性、パーソ

ナリティ、行動、興味、態度などの特徴的差異を、「役割」概念を用いて、ひとつの体系にまとめたものであるといえよう。

性役割には、

- (1) 最も早期に始まり、
- (2) しかも生涯にわたって持続され、
- (3) さらに主体自身によって積極的に受けとめられ、維持されようとする、

という特徴がある。性役割がこのような特徴を持つに至った理由は、

- (1) 「性別」が個人の努力によって獲得される地位 (achieved status) ではなく、出生と同時に運命的に割り当てられる、生得的地位 (ascribed status) であること。
- (2) 性別が他の生得的地位に比べて、きわめて安定性の高い (変更や推移のあり得ない) 地位であること。
- (3) この地位がきわめてわかり易い (服装や外見などの手掛りから) ものであるため、子どもの側で早期にその存在を理解できること。

以上の3点から生ずるものと考えられる (深谷, 1974)。

このように、性役割は生物学的基礎に規定される部分もあるため、「役割行動」としてではなく、生物学的行動発現であるかのように捉えられやすい面を持っている。しかし、Mead, M. や Hampson らの研究などからも示唆されるように、性役割の獲得は性別による社会化の過程として捉えることができる。従って幼児期における性役割の獲得過程は特に興味深い問題として注目されるのである。

2 節 性役割の獲得過程に関する諸理論

性役割の獲得過程に関する説明理論の流れには、大きく分けて3つある。本節ではそれらの理論及びその実証研究を紹介し、問題点を指摘したい。

2-1) 発達の同一視理論

Freud, S. による精神分析の概念である「同一視」(identification) を、発達の視点を持ちつつ、学習理論の中に再構成しようとするのが発達の同一視理論で、Mowrer や Sears に代表される。

Mowrer は「同一視」は2つに区別されると考えた。すなわち、欲求充足の媒介たる養護的な母親との間に成立する「発達の同一視」と、親からのしつけ (罰) の怖れを避けるために成立する「防衛的同一視」である。また、彼は同一視の成立過程を模倣学習とみなしている。子どもは母親との発達の同一視から防衛的同一視へ、さらに同性の親との同一視を経験し、行動型や性役割などを形成していく。男児の場合は、同一視の対象を母親から父親へと移行する必要があるもので、女児の場合よりも複雑で困難であるとされている。Sears は、Freud の同一視概念を Mowrer よりさらに展開して、自分の理論の中に吸収してしまっており、一般的な発達の問題として動因体系の視点から同一視を捉えている。彼は同一視を規定するものとして、

- (1) 愛情的養護、愛情剝奪的しつけ法
- (2) 母親の不在の量
- (3) 子どもへの要求のきびしさ
- (4) 父親の存在、しつけへの参与度

をあげている。

Mowrer と Sears は同一視概念を性役割獲得の説明にのみ用いたわけではなかったが、彼らの理論をもとに、特に性役割に重点を置いて同一視仮説を検証したのが Mussen と Lynn である。Lynn は性役割を、「性役割選択」(Sex-role preference)、「性役割採用」(Sex-role adoption)、「性役割同一視」(Sex-role identification)の3相に分けて、それらをさまざまな方法で測定している。また、性役割同一視の仮説として次の4つをあげている。

- (1) 年少時には、男児は同一視の対象を母親から男性性 (masculinity) へと移行させなければならないので、女児の方が同一視が強い。しかし男児の方が文化的に強化を強く受けるので年齢と共に男児の男性性への同一視の方が強くなる。
- (2) 女性より男性の方が文化的に地位が高いので、女児の方が異性役割を好み、その役割を取る傾向が大きい。
- (3) 男児が異性役割を取った場合、女児の場合よりも罰せられやすいので、男児は異性役割を取る傾向が少ない。
- (4) 同一視の対象として、男児が父親を対象とするより、女児が母親を対象とすることの方が多。しかし文化的には女性役割より男性役割の方が明確である。従って女児は母親をモデルとする模倣により、男児は男性ステレオタイプとの同一視によって性役割を獲得する。

(Lynn, 1959)。

Lynn の説は同一視に社会的、文化的要因を取り入れたことが特徴であるが、問題点がいくつかある。まず、先にあげた性役割の3つの相に関して、その発達の順序性及び相互の関係が不明確である。さらに、それらを測定する際に「性役割選択」にはドル・プレイ (Doll Play) や It スケールが、「性役割採用」には M-F 尺度 (Masculinity-Femininity Scale) が、「性役割同一視」には、人物画テストが用いられているが、Brown ら (1957) の指摘するように、測定具の妥当性に疑問が持たれる。また、4つの仮説についても、たとえそれらを支持する結果が得られたとしても、それが Lynn の述べているような理由によるものであるかどうかの検証にはならない。

Mussen らの、親の養護的態度と子の性役割の関係についての一連の研究 (たとえば、Mussen & Distler, 1960; Mussen & Rutherford, 1963) にしても、両者の関連性だけからは、そこに同一視の過程が媒介していることを証明することはできない。

このように、同一視概念を用いての説明理論は実証することが難しい。湯川 (1979) の指摘にもあるように、最近では同一視概念そのものが観察学習に吸収されてしまい、研究が少なくなっているようである。

2-2) 社会的学習理論

社会的学習理論は、基本的には刺激-反応説一般の枠組から発達における学習過程を見ていこうとするものである。

Mussen によると、性別化 (Sex-typing) の説明に用いられる主な原理には、分化した、あるいは選択的な賞罰、般化、媒介、モデリング、代理学習があげられる。例えば、自分の性別に適切な行動は、親をはじめとする周囲の人から「しつけ」という形で強化されて形成されてゆき、自分の性別に不適切な行動は、罰を与えられて消去される。このような直接的な賞罰だけではなく、「般化」によっても性別行動は形成される。すなわち、ある事態において学習したことが、それと類似した他の刺激事態においても反応が生起するようになる。子どもは認知的な発達に伴い、概念を形成し、対象や事柄に対してラベルを付与するようになるが、このラベリングがさらに進んだ般化の基礎となる。つまり同じラベルを付与された刺激は同じ反応を引き起こすのである。これは言語媒介、または媒介般化と呼ばれている。具体的には、「男の子の遊びだ」とか「男の子らしい」というラベルを伴った反応や活動は男児にとって魅力的であり、それ故、彼はそのような反応を学習しようとする、ということである。(Mussen, 1966)

Bandura は伝統的学習理論に基づく学習原理に対して、観察学習、代理学習、モデリングと呼ばれる一連の模倣による学習を、より重視している。彼は、幼児は養護者やその他のモデルの行動を観察して、自分の性別に適切な行動を模倣によって取り入れ、その結果としての社会的報酬により、さらに強化されると考える。そして観察学習に関する数多くの実験を行い、観察者とモデルとの間の親密な関係が模倣を促進するという結果 (Bandura & Huston, 1961) や、複数のモデルの行動を取り入れて新しい行動が成立すること (Bandura, et al., 1963a) や実在の人物のみでなく動物を擬人化したフィルムなど現実感の乏しいモデルにも模倣が生起すること (Bandura, et al., 1963b) などを見出した。

Bandura は1963年に、観察による学は、実験心理学では「模倣」、人格心理学では「同一視」と呼ばれている概念と実際には同じ行動現象を指していると発表している (Bandura, et al., 1963a) が、これらの概念は各研究間の間でまちまちに使われているため、その後の著作、(Bandura (ed.), 1971) では、モデリング (Modeling) という言葉に統一している。モデリングの影響は、(1)観察学習効果 (2)抑制効果及び脱制止効果 (3)反応促進効果 の3つの効果にわけられている。またモデリング過程は、下位過程として、(1)注意過程 (2)保持過程 (3)運動再生過程 (4)動機づけ過程 に分析される。保持過程においては言葉やイメージによる象徴的コーディングが行われる。その故、全ての被験者に対して同じモデリング刺激を与え、同じ強化を随伴させても、各人の象徴活動の違いによって一致反応の遂行に差が起こるという事態の説明が可能となる。

Bandura は社会的学習理論は一般に言われているほど人間の内的過程を無視するものではない (Bandura, 1971) と述べており、特に最近、自己の理論に Piaget の知見を取り入れ、認知機能の発達と観察学習の関連を強調している。しかしながら、このような視点に立つ研究は Bandura 自身の手によって行われていない。

2-3) 認知発達理論

Kohlberg (1966, p.83) は「幼児の性役割に対する基本的態度は、両性の生物学的本能や、任意な文化的規 によって直接規定されるのではなく、幼児自身の性役割の次元に添った社会に対する認知体系によって形成される。」と考え、認知発達理論 (cognitive-developmental theory) と呼ばれる理論を展開している。Kohlberg によれば、幼児は自己の身体知覚と社会についての基本的な考え方の中で、自己の役割を知覚し、学習していくが、その学習のしかたは幼児が観察した事象の中から取捨選択し、論理的に自己の内部で構成していくやり方である。彼は自分の理論と社会的学習理論との違いを次のように説明している。「自分は賞がほしい。男の子の遊びをしたら賞を得た。ゆえに自分は男になりたい。」というのが社会的学習理論の三段論法であり、これに対して「自分は男だ。だから男の子の遊びをしたい。ゆえに男の子の遊びをすること（そしてそのことによって承認されること）は自分にとって賞になるのだ。」というのが認知発達理論の考え方である。

Piaget は重さ、長さ、数などの保存概念の発達についての理論を構築したが、Kohlberg は性的同一視の形成も、概念の一般的な発達過程の一部であるとみなしている。すなわち幼児の普遍的かつ基本的な「性役割」の発達過程は次のようなものである。

- (1) まず一貫した性別カテゴリーが発達する。(安定した性的同一視の獲得)
- (2) 次に両性の性器の差異に徐々に気づいてゆく。
- (3) 性器以外の身体像 (body image) に基づいて男らしさ、女らしさのステレオタイプを発達させる。

従来の研究から、幼児は2、3歳で自分の性別をラベルとして学習し、次の2年間で適切な手がかりによって他人にも正しくラベリングできるようになることが明らかにされているが、これだけでは安定した性的同一視の発達の説明にならない。安定した正しい性的同一視は物理的客体一つまり身体一分類する幼児の能力に依存しており、それが一貫して正しく分類できることが確認されて初めて性役割を発達させる基礎たり得るのである。また、身体像に基づくステレオタイプ化とは、力、知識、能力、社会的勢力などの差を、身体の大きさ、年齢、性別などの差と結びつけて理解することである。

さらに Kohlberg は、このようにして確立された基本的な性役割概念が、男性性－女性性の価値づけへと形成される過程について5つの仮説を立てている。

- (1) 子どもは2歳までに、興味、活動、パーソナリティ特性に関して明らかな性差が現われる。そして既に確立された興味や嗜好と一致する対象や活動は新しく取り入れられるが、そうでないものは取り入れられない。(これは Piaget の「同化」の概念に当てはまる。)
- (2) 子どもは性役割に関する自己概念に一致するように、価値判断を行う。
- (3) 子どもは性役割ステレオタイプにポジティブな、自己を高めるような価値を結びつける傾向があり、その価値に対して動機づけられる。例えば男性性は、強さ、能力、権力などの価値と結びつけられているが、男児はこのようなステレオタイプを持つことによって男性的役割

を取ることで、及びそのステレオタイプに自己を適合させることに対して動機づけられる。これらはその役割が男児にとって賞と結びついているからである。

(4) 子どもは自己の性役割を規範的なものとみなし、それに一致することを道徳的に正しいと判断し、一致しないことを道徳的にまちがっていると判断する。

(5) 性別化は同一視の結果ではなく、性別化の結果として同一視が生じる。男性的な興味や価値を獲得した男児にとって、男性モデルの活動はより興味をひくものであり、故にモデルとされるのである。

Kohlberg の理論はまだ検証中の段階であるが、従来の理論ではほとんど顧られることのなかった認知発達の側面に注目した点では評価されよう。しかし、性的同一視あるいは性役割の認知発達のメカニズムそのものについては、十分に説明されているとはいえない。また、Kohlberg は、社会、環境的要因の性役割獲得に対する影響を認めてはいるものの、もっぱら認知的能力のみを強調しているため、Mussen (1966) の指摘にもあるように、同性内での個人差、つまり同じ認知発達段階にある男児（または女児）の興味、態度、行動の男性性－女性性の差をうまく説明することができない。

II 章 実 証 的 研 究

I 節 性別行動の発達に関する研究

I 章にあげた性役割理論の実証的研究とは別に、性格特性、知能、運動能力などの男女差を個々に検討する、「性差研究」がある。そのひとつである幼児の「性別行動」(Sex-typing behavior)－すなわち幼児の行動特性の性差－に関する研究では遊びや玩具の選択が取りあげられることが多い。その測定法には、選択テスト、観察法、評定法などがある。観察法は被験児をいろいろな玩具の置いてある部屋で自由に遊ばせて、どの玩具で遊んでいるかを記録にとる方法であり、選択テスト (preference test) は男性玩具－女性玩具（または男の子の遊び－女の子の遊び）を対にして、実物あるいは絵カードを呈示し、好きな方を選ばせる方法である。

Bronson (1971) は、15ヶ月の女児は動物のぬいぐるみでよく遊ぶことを、Goldberg と Lewis (1969) は13ヶ月の女児は「顔」のついた玩具を好む傾向があることを明らかにした。しかし、Jacklin et al. (1973) の研究では13、14ヶ月児がぬいぐるみで遊ぶ割合に性差はみられず、また男児は顔のついた玩具であるところのロボットを好むという結果を得た。さらに、Kaminski (1973) の研究では13ヶ月の男児は女児よりも人形遊びをする傾向が大きいことが明らかになった。これについて Kaminski は、人形は男児にとっては女児にとってより新奇性があり、興味をひいたのであろうと考察している。Kaminski はまた、13ヶ月児は男女ともドアの把手や床のタイルなどいろいろなことに使える玩具にひかれ、それらの使い方に性差はないことを明らかにした。このように1歳児には玩具選択に関して一貫した傾向はみられない。

男性的、女性的な玩具がはっきり識別されるようになるのは2歳ころからである。Clark et al. (1969) は2歳～4歳児を自然観察法によって観察し、男児は積木や動かして遊ぶ玩具でよく遊ぶ

のに対し、女兒は人形遊びや絵を描いたり、切ったり貼ったり縫ったりすることが多いと報告している。しかし、車やトラックやパズル、楽器遊び、砂遊び、粘土遊びに性差はみられなかった。Fagot と Patterson(1969) は、自然観察法によって3歳児の男児は積み木や乗り物の玩具で、女兒は描画や工作をしてよく遊ぶことを明らかにした。しかし、パズル、ビーズ、デザインボード、楽器を使つての遊びには差がなかった。またカード呈示法による選択テストでは4歳以上になると、ほぼ性別化されていることが明らかにされている。(Wohlford et al., 1971; DeLucia, 1972; Laosa & Brophy 1972)

Hartup と Moore (1963) は幼児がこのような性別化された玩具で遊ぶことに対する態度の性差を検討して次のような結果を得た。魅力的な男性玩具と魅力的でない中性玩具を呈示すると、男児は女兒よりも異性玩具で遊ぶことを回避する傾向が大きかった。そしてこの傾向は、特に実験者が被験児と一緒にいるときに顕著であった。また、Pulaski (1970) は、5、6歳児をいろいろな玩具の置いてある遊戯室で遊ばせて、男児は一貫して男性玩具で遊ぶのに対し、女兒は男性玩具、女性玩具の両方で遊ぶことを明らかにした。以上のように、玩具選択や遊びに関する男女児の分化の傾向は2、3歳に始まり、5歳ころには安定するようである。

Maccoby らも述べていることだが、このような玩具選択の性差と「性役割」は特に関連のある必然性はない (Maccoby & Jacklin, 1974)。男児の好きな積み木と男性役割との間に関連があるとはいえないであろう。しかしこれらの玩具や活動が一旦、一方の性にふさわしいとラベリングされると、幼児は自分の性にふさわしいとされる方を選ぶ点とすることが重要なのである。

2 節 行動獲得に及ぼすモデルの効果に関する研究

幼児がその行動の多くを、両親を始めとする周囲の人を模倣することによって習得することは、Bandura らによって指摘されている通りである。性役割獲得においても観察学習は重要な役割を果たすものと考えられるが、その場合、モデルの性別と幼児の性別との関係が重要な変数になってくる。本節では性役割獲得の前提となる、幼児の行動獲得における同性モデルと異性モデルの効果に関する研究を概観する。

Hartup (1962) は3歳から5歳児を対象にして、被験児に子どもの人形を渡し、父親人形と母親人形のいずれの行動を模倣するかを調べたところ、同性の親の人形への模倣がみられた。Kohlberg と Zigler (1967) も同様の手続きで4、5歳児と7歳児に試みた。彼らの分析によると、この方法は親への模倣と親に対する愛着 (attachment) との両方を合わせた「親に対する志向性」 (Parent Orientation) を測定するものであり、志向性の値は同性の親に対する方が高かったが、模倣については明らかにされなかった。また、Leifer (1966) は、3歳、5歳、7歳を対象に、青年期前期のモデルのさまざまな行動や玩具選択場面をフィルムで観察させたが、同性モデルへの模倣はみられなかった。

Hetherington と Frankie (1967) は、育児問題について両親に意見を求め、子どもの前で意見の一致をみるまで自由に討論させて、どちらの親が優位かを測定した。被験児はそのあとで両

親のさまざまな行動を観察した。結果は同性の親への模倣がみられた。しかし母親が優位な家庭では、男女児ともに母親を模倣する傾向がみられたのに対して、父親が優位な家庭では、同性の親に対する模倣が、より顕著であった。

Wolf (1973, 1974) の研究では、5歳から9歳を対象に、同性あるいは異性のモデルが被験児の性別に不適切と思われる玩具（男児：オープン、人形。女児：トラック、消防車）を用いて遊んでいるところを観察させた後、同じ玩具を呈示したところ、男女児とも同性モデルを模倣した。小橋川（1966）も同性モデルが異性玩具で遊んでいるところを観察させると、異性玩具に対する脱制止効果が働くという結果を得ている。

以上のように、モデルの性別と幼児の模倣行動との関連についてはほとんど一貫した結果が得られていない。それはひとつには、各実験で用いられているモデルの行動がまちまちであるためであろう。つまり行動の種類によって、幼児は模倣の対象とするモデルを性別によって選んだり、あるいは社会的勢力など他の次元によって選んだりするのではないかと考えられる。故に、性役割の獲得過程におけるモデルの効果を検討するには、とりあげる行動が子どもの認知過程や動機づけとどのように関連しているかを考慮する必要がある。またひとつには、実験場面というところの模倣は、モデルの行動をそのまま再現した場合のみを指すが、実際には子どもは大人の行動を観察して、その行動自体よりもむしろその「意味」を取り入れ、模倣するのではないと思われる。それ故、行動の「意味」を理解する際の子どもの認知レベル、及び行動を再現する際の子どもの身体発達のレベルも重要な要因として考慮すべきであることが指摘されよう。

3 節 性別概念の発達に関する研究

幼児の性役割獲得における子どもの側の認知過程の重要性は、1章2節において既に指摘した通りであるが、そこで認知の関数となるのは「性別」概念であろう。

深谷（1965）は3歳0ヶ月児の性別概念を言語テスト及びイメージテストによって測定し、次のようなことを明らかにしている。

- (1) 3歳0ヶ月児では男女の弁別を言語的に行うことは未だできない。
- (2) しかし、父母に対してはそれぞれ固有のイメージを形成しつつある（例えば、父—大きい、黒い、ギザギザ、恐い。母—小さい、赤い、なめらか、優しい）。
- (3) そのイメージは自分や異性に対しては未だ般化されていないが、その方向性は認められる。
- (4) 自分と父母との関係については、自分を父母の中間に位置するものとの理解から、徐々に同性の親に近いものとの理解の方向へ進みつつある。
- (5) これらの傾向は女児の方が早くみられる。

また、Thompson (1975) は3歳前の幼児の性のラベル (gender label) の発達とその機能につ

註：観察者が、以前には抑制していた行動をモデルが行って、しかも負の強化を受けないのを見た後で、その行動が生起しやすくなること。

いて調べ、次のような結果を得た。

- (1) 2歳で両性の区別が可能となる。洋服や品物の性別による帰属もある程度理解できる。
しかし、自分自身には性のラベルを適用できない。
- (2) 2歳6ヶ月になると、自分自身を性別のカテゴリーに正しく分類できるようになる。「よい」「わるい」の評価のラベルによって行動が影響される可能性は示唆されるが、性のラベルによっては影響を受けない。
- (3) 他人や自分の性別および洋服や家財の性別帰属を正しく知覚できるようになる。「よい」とされるものと「同性」に帰属されるものを選ぶようになる。
- (4) これらの傾向に性差はみられない。

Kohlberg が性別概念についての認知発達が生役割行動を規定することを示唆していることについては、本論文でも既に述べた。彼の理論を検証しようと試みた Marcus と Overton (1978) は、性別概念の理解とは、髪型や服装などの外見的な変形にまどわされずに、男一女を一貫して分類できることである、としてこれを「性別恒常性」(gender constancy) の確立と呼んでいる。彼らは5歳から7歳児を対象に、物理量の保存概念と、性別恒常性の有無を測定して、両者の関連を調べたところ、保存概念の無い者は、有る者に比べて性別恒常性が低いという結果を得た。また、この2つの概念を7通りのパターンに分けてガットマン尺度を構成したところ、72%の再現性が可能であった。このように、性別概念の発達を一般的な概念の発達のひとつとして考えることの妥当性はこの研究から立証されたが、それと性役割行動との間には有意な相関を見出すことはできなかった。

一方、Slaby と Frey (1975) は性別概念 (gender concept) を、性的同一視 (gender identity)、時間を越えての性の安定性 (gender stability over time)、さまざまな場面と動機にわたっての性の一貫性 (gender consistency across various situations and motivations) の3つの下位概念に分けて測定し、これらを理解することが「性別恒常性」(gender constancy) の獲得であるとした。そして性的同一視、性の安定性、性の一貫性の順に理解が進むことを明らかにした。また性別恒常性の水準の高い幼児は、それが低い幼児に比べて、同性モデルを選択的に注視する傾向のあることを明らかにした。

以上のように、性別概念の発達を測定する試みはさまざまに行われ、徐々に明らかにされつつある。しかし性役割行動との関連については一貫した結果が得られていない。性別概念の発達についての研究は Kohlberg の理論に関心を持つ研究者達を中心にすすめられているが、発達段階が明らかにされれば、Bandura のいうモデリング効果の差異を説明することができるかもしれない。モデリング理論と認知発達理論とは、アプローチは異なるが多くの接点を持っている。性役割行動に対するモデリング効果の差異と性別概念理解との関連を検討するのもひとつの方法であろう。

引用文献

- Allport, G. W. 1961 *Pattern and growth in personality*, Holt, Rinehart and Winston(今田恵 監訳, 1968 人格心理学 上, 誠信書房)
- Bandura, A., and Huston, A. C. 1961 Identification as a process of incidental learning, *J. Abnorm. soc. Psychol.*, 63, 311-318.
- Bandura, A., Ross, D., and Ross, S. A. 1963a A comparative test of the status envy, social power, and secondary reinforcement theories of identificatory learning, *J. abnorm. soc. Psychol.*, 69, 527-534.
- Bandura, A., Ross, D., and Ross, S. A. 1963b Imitation of film-mediated aggressive models, *J. abnorm. soc. Psychol.*, 66, 3-11.
- Bandura A., (ed.) 1971 *Psychological Modeling: Conflicting theories*, Aldine Atherton (原野広太郎, 福島脩美 訳 1975 モデリングの心理学—観察学習の理論と方法, 金子書房)
- Bronson, W. C. 1971 Exploratory behavior of 15-month-old infants in novel situation, paper read at the meeting of the Society for Research in Child Development, Minneapolis, in Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N. 1974.
- Brown, D. G., and Tolor, A. 1957 Human Figure drawing as indecators of sexual identification and inversion, *Percept. mot. Skills*, 7, 199-211 in Lynn, D. B. 1959.
- Clark, A. H., Wyon, S. M., and Richards, M. P. M. 1969 Free play in nursery school children, *J. Child Psychol. and Psychiat.* 10, 206-216.
- DeLucia, L. 1972 Stimulus prefernce and discrimination learning, in Rosenblith, J. F. W. Allinsmith, W. and Williams, J. P.(eds.) *The Causes of Behavior*, Allyn and Bacon
- Fagot, B. I. and Patterson, G. R. 1969 An in vivo analysis of reinforcing contingencies of sex-role behaviors in the preschool child, *Develpm. Psychology*, 1, 563-568.
- 深谷和子 1965 性差意識の形成過程 (I) 3歳児の Masculine-Feminine Identification について, 東京教育大学教育学部紀要 11, 123-132.
- 深谷和子 1974 性役割の学習 斉藤耕二, 菊池章夫(編著), 社会化の心理学, 川島書店, 175-191.
- Goldberg, S., and Lewis, M. 1969 Play behavior in the year-old infant: early sex differences, *Child Develpm.*, 40, 21-31.
- Hartup, W. W. 1962 Some correlates of parental imitation in young children, *Child Develpm.*, 33, 85-96.
- Hartup, W. W., and Moore, S. G. 1963 Avoidance of inappropriate sex typing by young children, *J. Consult. Psychol.*, 27, 467-473.
- Hetherington, E. M. and Frankie, G. 1967 Effects of parental dominance, warmth, and conflict on imitation in children, *J. Pers. Soc. Psychol.*, 6, 119-125.
- 井上和子 1970 性役割の習得過程, 津留 宏(編) 性差心理学 (現代心理学シリーズ1), 朝倉書店, 130-148.
- Jacklin, C. N., Maccoby, E. E., and Dick, A. E. 1973 Barrier behavior and toy preference: sex differences (and their absence) in the year-old child, *Child Develpm.*, 44, 196-200.
- Kaminski, L. R. 1973 Looming effects on stranger anxiety and toy preferences in one-year old infants, Unpublished Master's thesis, Stanford Univ., in Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N. 1974.
- 柏木恵子 1973 現代青年の性役割の習得, 大西誠一郎他(編), 現代青年の性意識 (現代青年心理学

- 講座 5), 金子書房, 99-139.
- 小橋川慧 1966 幼児の異性役割行動に及ぼすモデルの「脱制止」効果, 教心研, 14, 9-14.
- Kohlberg, L. 1966 A cognitive-developmental analysis of children's sex-role concepts and attitudes, in Maccoby, E. E. (ed.), *The development of sex differences*, Stanford Univ. Press, 82-173.
- Kohlberg, L. and Zigler, E. 1967 The impact of cognitive maturity on the development of sex-role attitudes in the years 4-8, *Genet. Psychol. Monogr.*, 75, 84-165.
- Laosa, L. M. and Brophy, J. E. 1972 Effects of sex and birthorder on sex-role development and intelligence among kindergarten children, *Develpm. Psychol.*, 6, 409-415.
- Leifer, A. D. 1966 The relationship between cognitive awareness in selected areas and differential imitation of a same-sex model, Unpublished M. A. thesis, Stanford Univ. in Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N. 1974.
- Lynn, D. B. 1959 A note on sex differences in the development of masculine and feminine identification, *Psychol. Rev.*, 66, 126-135.
- Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N. 1974 Sex Typing and the role of modeling, in Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N. *The psychology of sex differences*, Stanford Univ. Press, 277-302.
- Marcus, D. E. and Overton, W. F. 1978 The development of cognitive gender constancy and sex role preferences, *Child Develpm.*, 49, 434-444.
- Mead, G. H. 1978 Language and the development of the self, in Cosini, R. J. (ed.) *Readings in current personality theories*, Peacock, 138-150 (reprinted from Mead, G. H. 1934).
- Mussen, P. H. 1966 Early sex-role development, in Goslin, D. A. (ed.) *Handbook of socialization and research*, Rand McNally, 707-731.
- Mussen, P. H. and Distler, L. 1960 Child-rearing antecedents of masculine identification in kindergarten boys, *Child Develpm.*, 31, 89-100.
- Mussen, P. H. and Rutherford, D. 1963 Parent-child relations and parental personality in relation to young children's sex role preference, *Child Develpm.*, 34, 589-607.
- Pulaski, M. 1970 Play as a function of toy structure and fantasy predisposition, *Child Develpm.*, 45, 531-537.
- Slaby, R. G. and Frey, K. S. 1975 Development of gender constancy and selective attention to same-sex models, *Child Develpm.*, 46, 849-856.
- Thompson, S. K. 1975 Gender labels and early sex role development, *Child Develpm.*, 46, 339-347.
- Wohlford, P., Santrock, J. W., Berger, S. E., and Liberman, D. 1971 Older brother's influence on sex-typed, aggressive, and dependent behavior in father-absent children, *Develpm. Psychol.*, 4, 124-134.
- Wolf, T. M. 1973 Effects of live modeled sex-inappropriate play behavior in a naturalistic setting, *Develpm. Psychol.*, 9, 120-123.
- Wolf, T. M. 1974 Response consequences to televised modeled sex-inappropriate play behavior, submitted for publication, *Develpm. Psychol.*, in Maccoby, E. E. and Jacklin, C. N., 1974.
- 湯川隆子 1979 性差, 藤原喜悦 他 (編), 児童心理学の進歩 1979年度版, 金子書房, 18, 237-265.